

令和 8 年度（2026 年度）陸奥湾マダラ稚魚分布調査結果について

2026 年 5 月 12 日～14 日、6 月 1 日～2 日の 2 回、それぞれ陸奥湾の 8 調査点で試験船青鵬丸（65 トン）のオッタートロール海底曳によるマダラ稚魚の分布調査を行いましたので、結果をお知らせします。

マダラ稚魚の採捕尾数は、5 月は 16,113 尾、6 月は 5,393 尾と、5 月に多く採捕されました。

図 1 に 5 月の地点別の分布密度を示しました。最も高かった地点は St.1 で 296 尾/1,000 m²でした。この他、2021 年以降、6 年連続で全調査地点において分布が確認されました。また、地点別標準体長別の採捕尾数を表 1 に示しました。標準体長のピークは St.1 及び 3 の 38 mm が最大であり、同 50 mm であった前年同期より小型傾向でした。

図 2 に分布密度の平均値と最高値の経年変化を示しました。2026 年 5 月の平均分布密度及び分布密度の最高値は 10 年間で 5 番目に高い値となっており、近年の中では中間的な豊度であった可能性があります（図 2）。

2025 年漁期（4 月～翌年 3 月）の陸奥湾（竜飛～奥戸）のマダラ漁獲量は 2,562 トン（暫定値）となりました。2016 年漁期以降、1,000 トンを超える漁獲が継続していますが、その間、稚魚豊度は大きく変動しています。

今後も調査を継続し、稚魚密度と資源量との関係を明らかにし、漁況予測出来るよう取り組んでいきます。

(資源管理部 松谷紀明)

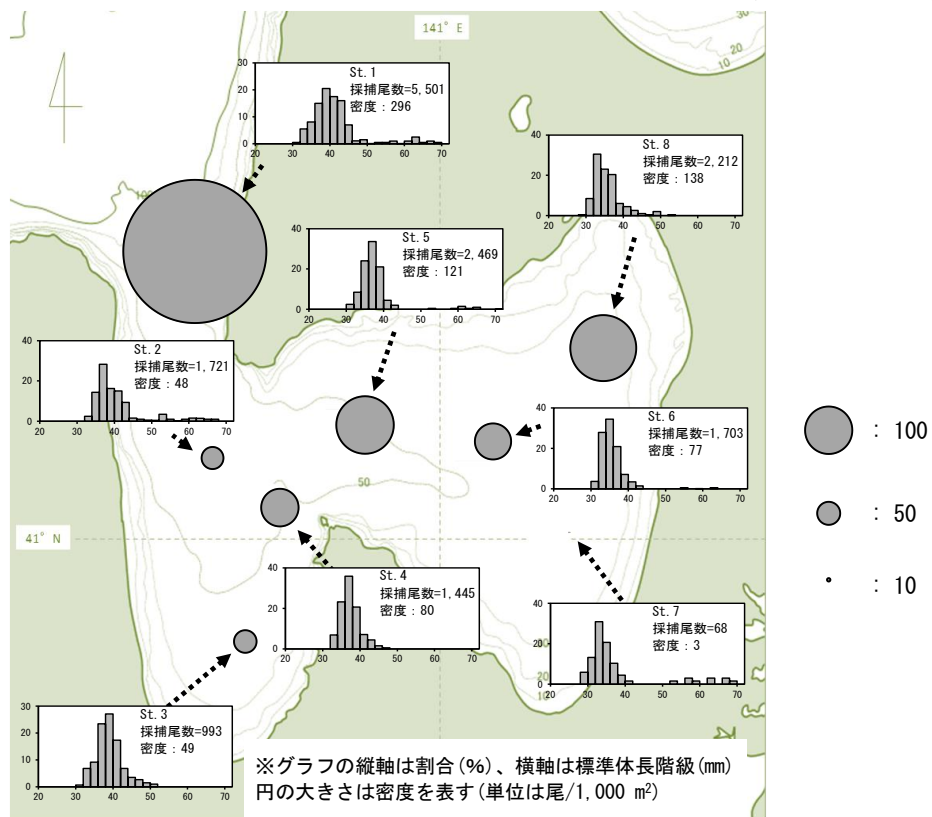


図 1 陸奥湾マダラ稚魚分布密度と標準体長組成結果（2026 年 5 月）

(試験船青鵬丸によるオッタートロール)

表1 5月の地点別標準体長別採捕尾数（マダラ）								
標準体長 (mm)	モード: □							
	St. 1 N=5, 501	St. 2 N=1, 721	St. 3 N=993	St. 4 N=1, 445	St. 5 N=2, 469	St. 6 N=1, 703	St. 7 N=68	St. 8 N=2, 212
20 ≦ - < 22								
22 ≦ - < 24								
24 ≦ - < 26								
26 ≦ - < 28								
28 ≦ - < 30							4	11
30 ≦ - < 32	27		7		61	62	9	187
32 ≦ - < 34	301	43	68	99	210	476	21	674
34 ≦ - < 36	441	248	91	335	593	587	14	510
36 ≦ - < 38	825	486	233	518	830	356	7	451
38 ≦ - < 40	1, 129	279	269	298	518	120	3	133
40 ≦ - < 42	963	259	172	102	110	59	1	99
42 ≦ - < 44	880	161	68	64	49	25		57
44 ≦ - < 46	383	26	35	21				23
46 ≦ - < 48	56	17	26	7				11
48 ≦ - < 50	82	9	15					45
50 ≦ - < 52	1	8	10					
52 ≦ - < 54	27	60			12		1	11
54 ≦ - < 56	27	18				8		
56 ≦ - < 58	55	1					2	
58 ≦ - < 60	1	17			12	1	1	
60 ≦ - < 62	55	26			37			
62 ≦ - < 64	137	25			12	8	2	
64 ≦ - < 66	27	17			24			
66 ≦ - < 68	55	17					2	
68 ≦ - < 70	27						1	
70 ≦ - < 72					1			
72 ≦ - < 74								
74 ≦ - < 76								
76 ≦ - < 78								
計	5, 501	1, 721	993	1, 445	2, 469	1, 703	68	2, 212

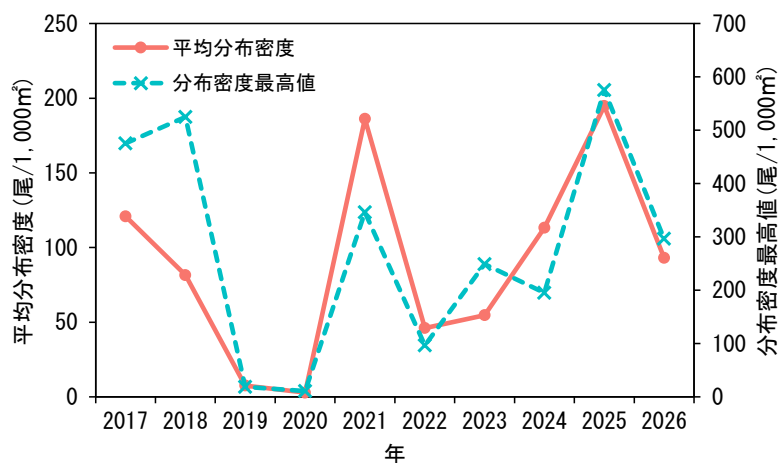


図2 5月の陸奥湾マダラ稚魚分布密度の経年変化（2017-2026年）